

大安中学校の生徒さんへ

先日の亡五男 昂の葬儀に際しましては、中学校の授業やクラブ活動があったにもかかわらずたくさんのご弔意を賜り、厚くお礼申し上げます。

ニュース等で事故のことをご存知の方もおみえかと思いますが、去る3月9日木曜日の朝、昂は交通事故に遭いました。その日昂は通学のため自宅を自転車で出発し、午前7時40分ごろ、自宅から約300m離れた交差点で自動車にはねられました。昂は中学校のウインドブレーカー上下を着用、ヘルメットをかぶり通学に使用していたスポーツバッグを自転車の前かごに乗せて自宅を出発し、期末テストのある大安中学校に向かっていたいました。事故現場はデンソー大安工場の正門へ通じる整備された見通しのよい二車線道路で、平日の朝の通勤時間帯ということもあり交通量は多かったようです。



事故現場（昂側から）

事故を目撃した方の話によると、通行時、右（東）側から自動車が走行してきたため、昂は交差点の左側横断歩道の手前で一旦停止し右側から走行し

てきた自動車の通過を待ったあと、停止していた自転車に乗って交差点を渡ろうとしたところ、左（西）側から走行してきた自動車にはねられました。



事故現場（加害車両側から）

事故の瞬間、自転車に乗っていた昴の体は自動車の右ヘッドライト付近に激しく衝突し、フロントガラスで左側頭部を強打し、それが致命傷となり搬送されていた市立四日市病院で3月14日夜亡くなりました。交差点中央付近で衝突された昴の体は20m以上も飛ばされ、乗っていた自転車は大きく破損し、かぶっていたヘルメットは衝突の強い衝撃で遠くまで飛ばされていました。加害車両のスピードが何キロ出ていたのかわかりませんが、ものすごいスピードだったということですし、衝突までほとんど減速しておらず急ブレーキをかけた様子もなかったとのことでした。



加害車両



昂の自転車

(衝突の衝撃により、自転車本体はややくの字に曲がり、荷台は変形してしまいました。)



昂がかぶっていたヘルメット

(あご紐のとめ具を3cmほど締めていましたが、事故の激しい衝撃で頭から外れてしまいました。)



緊急手術をしていただいた脳神経外科の医師によると、脳からの出血がおびただしく、頭の根元の骨が折れ、左足大腿骨も折れていました。事故から3日目午前の診察により医師から脳死状態だと宣告され、その後も三日ほどがんばりましたが、結果的に病院へ搬送されたときには脳は即死状態に近かったとの説明を受けました。

事故の日、私はいつもどおり昴よりも早く自宅を出て名古屋の職場へ電車通勤する途中でした。私が出宅する6時30分、まだ就寝中の昴に「昴、6時半やで。」と声を掛けるのが日課となっていて、その日も同じように布団の中の昴に声を掛けたのが最後となりました。昴が硬式野球で使っていた金属バットがお兄ちゃんのお古ということもあり黒い色がはげてきていたので、前日の夕食の際、私は「そろそろ新しいバットを買ってあげよか。」と話をしました。昴はうれしそうに聞いていました。その時は昴がまさか翌日に一瞬の交通事故で亡くなることになるなんてこれっぽっちも想像していませんでした。昴は小さいころから何でもよく食べる子で身長は160cmほどでしたが体重は80キロぐらいあり、誰にも増して腕力が強い子でした。小学1年生から始めた野球では自慢の怪力を生かしたバッティングがすごくて、所属した少年野球チーム「笠間クラブ」時代からその打球の飛距離には目を見張るものがあり、たくさんの大会で活躍して私たちを喜ばせてくれました。中学生になってからは、日課としていたフルスイングの素振り100本や、平日帰宅後に週2～3回所属していた硬式野球チーム「菰野ボーイズ」の夜間練習場に

出向いてトスバッティングとバッティングマシンでの打撃練習に取り組んだ成果もあり、打球の飛距離をさらに著しく伸ばしていました。菰野ボーイズでは今年に入り1年生ながら四番を任されていました。さあいよいよ春の野球シーズンに突入し、今後対戦する県内ライバルチームも昂の打球には驚くに違いないと親子ともに楽しみでワクワクしていた時期でした。昂は勉強があまり得意ではありませんでしたので、昂とは、この先も野球で生きていこうと親子で将来の夢を語っていましたし、ひょっとしてすごい選手になるかもしれないと思わせるような片鱗を見せ始めていたと思います。2月に伊勢市で行われた大会の桑員ボーイズ戦では、振り遅れた昂の飛球がライトフェンス上のネットに直撃して驚いたシーンが思い出されます。親バカかもしれませんが、半ば本気でプロ野球選手を目指そうとしていたほど昂は立派で頑丈な体をしていました。中学校ではクラスの室長に指名され、彼なりに努力してクラスをよくまとめていると聞いていましたし、クラブ活動の卓球でもがんばっていると聞いていました。五人兄弟の末っ子で気が優しくとても穏やかな性格の子でしたので、私たち両親はもちろん四人の兄からもすごく愛されていました。そんな昂がまさか交通事故でこんなことになるなんて・・・。人の命ってあっけないものですね。

まもなく新学期です。大安中学校の皆さんは、進級して新しいクラスとなり新一年生は中学校へ進学されて、さまざまな夢や希望を胸に抱かれていますことと思います。保護者の皆様におかれても、さぞかしわが子の成長に目を

細めていらっしゃることでしょう。そんなときにどうかとは思いましたが、私から大安中学校の生徒の皆さんに今どうしてもお願いしたいことがあり、この手紙を書くことを決意しました。

お願いしたいことの一点目は、皆さんには、自分の命を大切にし、常に自分の命を守る行動をしていただきたいということです。皆さんは全員、日ごろ育ててくれている保護者の方は言うまでもなくご家族や学校、地域の方々から計り知れない愛情を受けて育っています。かけがえのない皆さんの命が万一なくなってしまうと、言葉では決して言い表せない深い悲しみしか残りません。皆さんが自転車を運転するときには、前から来る自動車、後ろから来る自動車、目の前の交差点を通る自動車、そのすべてから自分の身を守る安全な運転を心掛けていただきたいと思います。私も自動車を運転しますのでよくわかりますが、自動車を運転しているとドライバーからは自転車や歩行者がすごく小さく見えてしまいます。また、ドライバーは自分が運転している自動車が衝突したとしたらどれだけ大きな衝撃を与えるかを考えながら運転しているわけでもありません。スマホや携帯電話を操作しながら運転しているドライバーが多いことも事実です。さらに、会社の出勤時間や約束の時間に余裕がなくひたすら先を急ぐあまり、自転車や歩行者には目もくれず、スピードを出しすぎたり、交差点で一旦停止せず逆に優先して走行させるべき自転車に止まらせたり、赤信号に変わっているにもかかわらず無理な右左折をしたり・・・数え上げたらきりが無いほど自転車と歩行者には危険がい

っばいです。命の危険というのは生活のあらゆる場面に潜んでいます。昂の場合は通学中の交通事故でした。皆さんには、自動車は止まらないかもしれない、ぶつかってくるかもしれない、スマホ操作に夢中で自分の姿はドライバーの目に入っていないかもしれない、そんな意識を常に持って通学していただきたいですし、自分の大切な命は自分で守らなければいけないという意識を心に強く刻んでいただきたい。

二点目は、自転車に乗るときはヘルメットをしっかりとかぶっていただきたいということです。昂は事故のときヘルメットをかぶっていてあごの紐も締めていましたが、衝突したときのあまりに激しい衝撃でヘルメットが頭から外れて飛んでしまいました。もしもヘルメットが外れなかったら昂は助かっていたかもしれません。悲惨な死亡事故をなくすために、万一自動車にぶつかったとしても致命傷となる頭への衝撃をやわらげるためのヘルメット着用を徹底していただきたいですし、ヘルメットが外れないようあごの紐を十分に締めてヘルメットをしっかりと固定することも必ず守っていただきたいです。中学生の皆さんは、ヘルメットをかぶることによって髪型が乱れたり、ヘルメットをかぶること自体が格好悪いといった考えを起こしてしまう年頃かもしれませんが、ヘルメットをかぶらず自転車のかごに入れていたり、ヘルメットをかぶっていても頭にのせているだけではほとんど意味がありません。学校に近づいたらかぶるというのも同じです。ヘルメットをきちんと着用することが自分の命を守る上でいかに重要かということを肝に銘じていた

だきたいです。

最後に三点目は、自転車に乗ったり道路を歩行する場合、ドライバーから目につきやすい服装をし、自転車にも目につきやすい反射シール等を貼ることによって、自動車にぶつかられにくいよう自己防衛をしていただきたいということです。昴の事故は天気のよい朝のことでしかも見通しのよい交差点だったにもかかわらず、加害ドライバーは衝突するまでほとんど減速していませんし急ブレーキをかけた様子もなかったとのこと。加害ドライバーが衝突のとき何をしていたのか、また何を考えていたのか私には到底わかりませんが、加害ドライバーは衝突の瞬間まで昴と自転車の存在に気づいていなかったと思われます。こんなことになるんだったら、昴にはもっと派手な色のウィンドブレーカーを着せ、反射たすきも着用させ、自転車にも派手な反射シールを何枚も貼っておけばよかったと強く後悔しています。このような交通事故の悲劇を繰り返さないためにも、このたび自転車のタイヤホイールに貼る反射シールを寄贈させていただきます。生徒さん一名につき二枚の反射シールを贈りますので、自転車の後輪の左右に一枚ずつ貼っていただき少しでもドライバーが気づきやすい自転車にさせていただいて、交通事故に遭う危険性を少しでも減らすようにしてください。

気づけばもう四月です。一月中旬の大雪がうそのように桜のつぼみがふくらみ、木々の若葉も芽吹き始めています。連日春の選抜甲子園大会の熱戦が繰り広げられており、今日は準決勝が行われています。また、地元では春の



地区予選の真っ最中で、桑名工業高校で野球をしている三男の兄は、昴が亡くなった悲しみを抱え、県大会進出をかけて今日いなべ総合学園と対戦しています。四男の兄は、入学間近の海星高校へ行き野球部の厳しいルールを叩き込まれているところです。皆さんにおかれましても、新しい環境のスタートとなり学校生活やクラブ活動などでがんばっていかれることと思います。大安中学校の皆さんが昴のような交通事故に遭うことなく、それぞれの夢に向かって充実した生活が送れますことを心よりお祈り申し上げます。

平成 29 年 3 月 30 日

亡昴の父 小林 昌宏

母 久里子